オーディオ実験室収載

# スピーカーアキュライザーの導入(2)
## －アナログ再生－

## １．始めに

インフラノイズ社のスピーカーアキュライザーSPA-7 の導入に際し、音源と再生経路を替えて、順次試聴を行っていきます。まずは、アナログ再生から開始します。

## ２．スピーカーアキュライザーSPA-7 の試聴計画

スピーカーアキュライザーSPA-7 の仕様は、Web 情報紹介【2023No.45】と前報(1)で報告したとおりです。試聴にあたっては、前報(1)で述べたように FAL C90EXW を対象とし、音源と再生経路を替えて、順次試聴を行っていきますが、今回は、アナログ再生を実施します。

FAL C90EXW は、現在、しなの音蔵オリジナル 300Ｂシングルアンプからのバイワイアリングとしており、ムジカライザーML-6 で、FAL C90EXW の平面ユニットとハイルドライバーに分けて、左右それぞれ 2 本のスピーカーリベラメンテで接続しています。また、仮想アースの検討(10)で報告しましたように、ML-6 のマイナス端子側に自作の仮想アースと電解コンデンサーを接続していますし、ML-6 の下にはポリエステルウールを敷いています。

取扱い説明書によれば、インピーダンス補正素子、インフラノイズ製のハーモナイザー、仮想アース、インシュレーター、ケーブルインシュレーター、仮想アースとの併用は好ましくないとあります。

そこで、ML-6 とそのマイナス端子の自作の仮想アースと電解コンデンサーを取り外し、SPA-7 に置き換えます。なお、バイワイアリングとケーブルチューナーは問題ないということですから、ケーブルチューナーはそのまま残します。また、高音質のスピーカーケーブルも必要ないということですが、スピーカーリベラメンテはそのままとします。

メーカー指示によれば、SPA-7 はスピーカー側に近いところにセットするということですが、一方、バイワイアリングはユニット間の干渉を避けるため、アンプ側から分岐させるのが通例です。このため、SPA-7 の逆起電力吸収のメリットを活かすうえでは変則的であることを承知の上で、スペースファクターの便宜上からも、まずは、Western の単線でアンプ側に近いところに繋ぐこととし、スピーカー側に寄せることは事後の検討課題とします。

なお、スピーカー後ろが狭隘で作業性が悪いため、フラットユニット端子への結線はねじ止めからバナナプラグ差し込みに変更しました。

試聴するアナログ盤は次のとおりで、LINN LP-12 から ZANDEN Model120 経由で再生します。イコライザーカーブ、絶対位相、第 4 時定数はこれまでの実績を基に最適と思われる条件に設定します。

Deutsche Grammophon　483-6927/6928/6929
　　J.S.Bach　Sonatas & Partitas
　　Nathan Milstein（Vn）
ドイツグラモフォン MG9551
　　ベートーヴェン　三つのピアノソナタ（選帝侯のソナタ）
　　ゲザ・アンダ（ピアノ）
LONDON KLJC-9180/9184（RTI／キングレコード）
　　リヒヤルト・ワーグナー　ワルキューレ全曲
　　ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル
EMI　AA　9117・C
　　フリードリッヒ・ヘンデル　メサイア
　　オットー・クレンペラー指揮フィリハーモニア
L'OISEAU-LYRE D1701-1～D1701-3
　　モーツアルト　Symphony in G Minor
　　Symphony in A Major
　　Symphony in D Major
　　Symphony in D Major
　　Symphony in C Major
　　Symphony in D Major
　　Symphony in D Major

Academy of Ancient Music
Concert Master: Jaap Schroeder
Continuo: Cristopher Hogwood
ACCENTUS MUSIC KKC 1171/3（45 回転盤）
ヤクブ・フルシャ指揮バンベルク交響楽団

３．スピーカーアキュライザーSPA-7 の試聴結果

アナログの試聴のポイントは、ひと昔前の名演奏を蘇えらせるかどうかですが、音質面での注目点は、弦の倍音の伸びであったり、ボウイングの様子、ピアノの共鳴弦の響き具合や打鍵の立ち上がりやフレイジング、オリジナル楽器の質感、合唱やオーケストラの音の分離と協和などです。

バッハの無伴奏ソナタとパルティータは、無伴奏パルティータを聴きましたが、これまで以上に、ヴァイオリンの貴公子と言われたミルシュテインのヴァイオリンに艶が乗り、細かいボウイングの様子が分かります。

ベートーヴェンの選帝侯のソナタは、これまで以上に、アンダのピアノの響きが豊かになって、別の演奏かと思うくらいです。

ワーグナーのワルキューレは、ワルキューレの騎行のパートを聴きましたが、オーケストラの分離とドスの効いた切れ味があり、ソプラノやメゾソプラの位置関係が明瞭になり、調整卓を経由しないダイレクトコネクティングによるハーフスピードカッティングの効果が発揮されています。

ヘンデルのメサイアは、ハレルヤコーラス以降を聴きましたが、コーラスの分離と協和がこれまで以上で、迫力満点であり、特に合唱のソプラノのパートの最高音がよく伸びています。さらに、オルガンがオーケストラとよく分離し、その通奏低音がしっかり聴き取れます。ソプラノのシュワルツコップのヴィブラートが良く伸び、バスのハインズもソロトランペットとともに朗々と響きます。

Academy of Ancient Music による 3 枚組のザルツブルグ時代の交響曲のオリジナル楽器を使用し、ピッチを 430 に設定した演奏は、1 面の 1 曲目を聴きましたが、これまでに比べ、音が軽やかに出て、オリジナル楽器の質感がしっかり聴き取れるようになりました。特にローレベルでのオリジナル楽器の弦のノンヴィブラートが綺麗に聴こえました。

スメタナのわが祖国は、ダイレクトカッティングの 45 回転盤で、モルダウを聴きましたが、ローレベルでの弦と木管が美しく、ピッコロやハープの味付けもしっかり聴こえ、金管が咆哮する終盤の盛り上がりのダイナミズムが 45 回転盤らしさを出しています。バンベルク響はブルックナーの 4 番を演奏会で聴いていますが、ドイツのオーケストラらしい重厚な響きを思い出させてくれます。

以上、これまでと違ったアナログの魅力を引き出すことが分りましたが、さらなる

調整も視野に入れておきます。

## ４．まとめ

これまでのムジカライザーML-6と仮想アースから、スピーカーアキュライザーSPA-7への変更により、上記アナログ盤の持つ本来の魅力が引き出せるようになりました。

以上